

令和4年度第1回（第20回）外部アドバイザー委員会報告書

- 1 開催日時 令和4年6月3日（金） 14時00分～15時05分
- 2 開催場所 倉敷市立短期大学 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 出席5名
山本委員、津田委員、池葉須委員、海本委員、江島委員
 - (2) 教職員 出席9名
安達学長、木戸保育学科長、岩崎服飾美術学科長、大原図書館長、家守事務局長、岡事務局主幹、眞次学生部長、松内学生部主幹、松本会計年度任用職員
 - (3) オブザーバー 出席1名
余村企画経営室長
- 4 次第
 - (1) 安達学長挨拶
 - (2) 報告・審議事項
 - (3) その他
 - (4) 次回委員会開催時期について
- 5 外部アドバイザー意見及び質問

○意見1

保育学科の「子育てカレッジ くららっこ」について、コロナ禍のため2年間、活動を休止していると知っていましたが、4月から「くららっこ」は再開していたのですか。

【回答】

「くららっこ」は昨年度、市全体でコロナウイルス感染症の陽性者が増えている時は、子育て支援課から休室の連絡がありましたが、今年度は通常どおり開設しており、入室の際に検温や家族の健康状態を確認しています。

○意見2

服飾美術学科の特例認定専攻科とはどのようなものですか。

【回答】

専攻科の2年を修了した際、自動的に学位を取得出来るわけではなく、学位授与機構からの承認が必要となり、学生は試験を受けなければいけません。しかし、本学が特例認定

を受けると、保育学科と同様に2年間の教育課程を修了すると学位を取得できるようになるということです。

○意見3

高校の立場から話をさせていただきます。入試等で市立短大の魅力をしっかり発信していただいて、高校生に「この短大に行きたい」との気持ちにさせることが大事だと思います。同時に、入試にあたって、高校時代にこんな資格を取得しているとか、こんな活動にしっかり取り組んだ人にはプラス点がついて有利になるなど、アピールしていただくとありがたいです。私は高校の家庭科の教員でしたが、「家庭科技術検定」の1級取得を目標に指導していました。県外の大学・短大によっては1級を取得している生徒についてはプラスアルファのポイントを付けるなど優遇措置を取ってくださる学校もあります。例えば入学後の授業料を少し免除するような優遇措置もありましたので、高等学校の家庭科の教育協会としても家庭科を学ぶ生徒たちに有利になるようにとのことで各大学・短大に働きかけをしていこうとの運動もあります。家庭科と繋がりが深い保育学科・服飾美術学科ですので、その辺りをしっかり見ていただくとありがたいです。また、倉敷市内からの学生募集をとのお話もありました。高校生の通学範囲は広いですので、特に県南を中心に学生募集をしていただければいいのではないかと思います。

【回答】

ご意見を両学科から入試委員、入試委員会へとお伝え致します。短大の現状をご説明しますと、学生部が中心となって高校訪問に取り組んでいます。150を超える高校に教員が足を運ぶ、遠方の高校は郵送になりますが、9割以上の高校には直接進路の先生のお顔を見ながら説明させていただく、地道ですが努力をしている過程です。

○意見4

今、中高一貫教育があります。それなら、同じ倉敷市立の学校ですから翔南高校と短大と、例えば高校にデニムコースやデニム科があって短大に服飾美術学科デニムコースを設けるとか、そのようなコラボレーションは出来ないのかと思いました。そうすると、翔南高校にも特色が出てくるし、次に短大で深く勉強でき、短大の特色にもなると思います。高校と短大が連携し、そこに行けば世界で一番の知識が手に入るといった学校として存在して欲しいです。

○意見5

翔南高校は総合学科で、現在、アパレルファッション系列で言えば、児島の地場産業に関する形の服飾に関わる学習をしております。コロナで2年間ほど頓挫していましたが、今年度は短大さんと高大連携という形でお互いに関わりを持ってたらと思調整をしております。他校でも大学と連携して単位認定しているところがあります。短大さんと少しずつ進められたらと思います。

【回答】

高校大学間での単位認定については、文部科学省から通知が来ております。内容等、確認をしているところです。

○意見6

家庭科の検定についてご意見がありました。前任校で、検定合格者には、例えば奨学金や授業料減免といった制度がありました。

短大での授業中、遠方出身の学生たちに、短大に来た理由を聞いてみましたら、公立の短大に魅力を感じたそうです。また、どうやって短大を知ったのかと質問しましたら、自分でネットを使って探したと言っていました。

専攻科へ進学する学生の定員について、私のように一般教科の授業をする側としてはある程度の人数がある方が方向性を決められるのでありがたいです。ただ、専門科目という視線では少人数の方がそれぞれの好きな分野を学べてよいのかと思います。

高校も大学も、生徒を集める、学生募集の面で考えると厳しい現状なのだろうと思います。

○意見7

公立短大の志願者数が減ってきている、その原因はとのことでしたが、全国的に短期大学の現状が相当心配されている。短大も3年後、5年後に移転が決まり新しい校舎になるのかも分かりませんが、「駅前に行くから」潤沢に受験生が集まるかといえば、それはないと思います。一過性で少しは集まるかもしれないし、「短期大学へ行きたい」学生さんは沢山いると思うけれど、短期大学のこれからの中長期的なビジョン、短大の将来構想について議論を始めていないと遅いと思います。将来構想的なものを、教授会でも設置者に働きかける、設置者もそれに応える、そういったことが必要。教授会が設置者に向かって「こういうことをして貰いたい」「こういう風にしてもらいたい」とお互いに意見交換をしていかないといけないと思います。